corega® BAR SW-4P Pro

Version 1.11 追加機能について

本書では、ファームウェア Version 1.11 で追加された「Unnumbered IP」、「Unnumbered IP+Private IP」機能、バーチャルサーバー、ローカルオフィスモードの追加機能、パケットフィルタリング (IP ルール) の仕様変更について説明します。

目次

■ 1. ファームウェアバージョンの確認 2

■ 2.Unnumbered IP 3

■ 3.Unnumbered IP + Private IP..... 8

■ 4. バーチャル・サーバーの拡張機能..... 13

■ 5. ローカル・オフィスモードの追加機能 15

■ 6. パケットフィルタリング (IP ルール) の仕様変更.....19

本書では、追加機能以外の手順については説明しません。ここに記載されていない手順については、本製品付属の取扱説明書を参照してください。

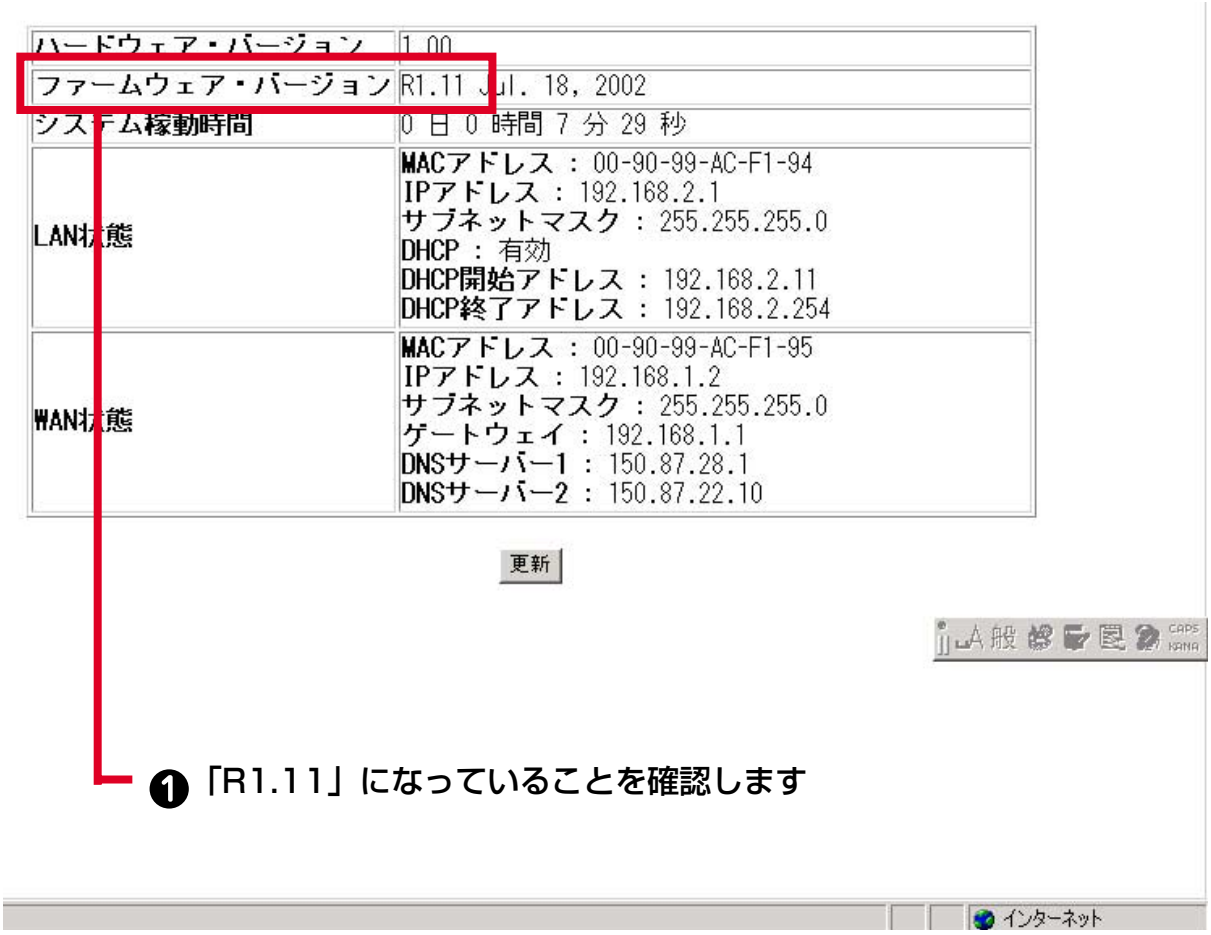
PN J613-M7097-02 Rev.B 020719

1.ファームウェアバージョンの確認

追加機能の設定を行う前に、ファームウェアのバージョンを確認します。

注意 ファームウェア更新の手順については、本製品付属の取扱説明書・詳細編を参照してください。

1.「システム情報」をクリックします。



2. 確認が終了したら、次ページへお進み下さい。

2 .Unnumbered IP

Unnumbered IP について説明します。

2.1 「Unnumbered IP」とは？

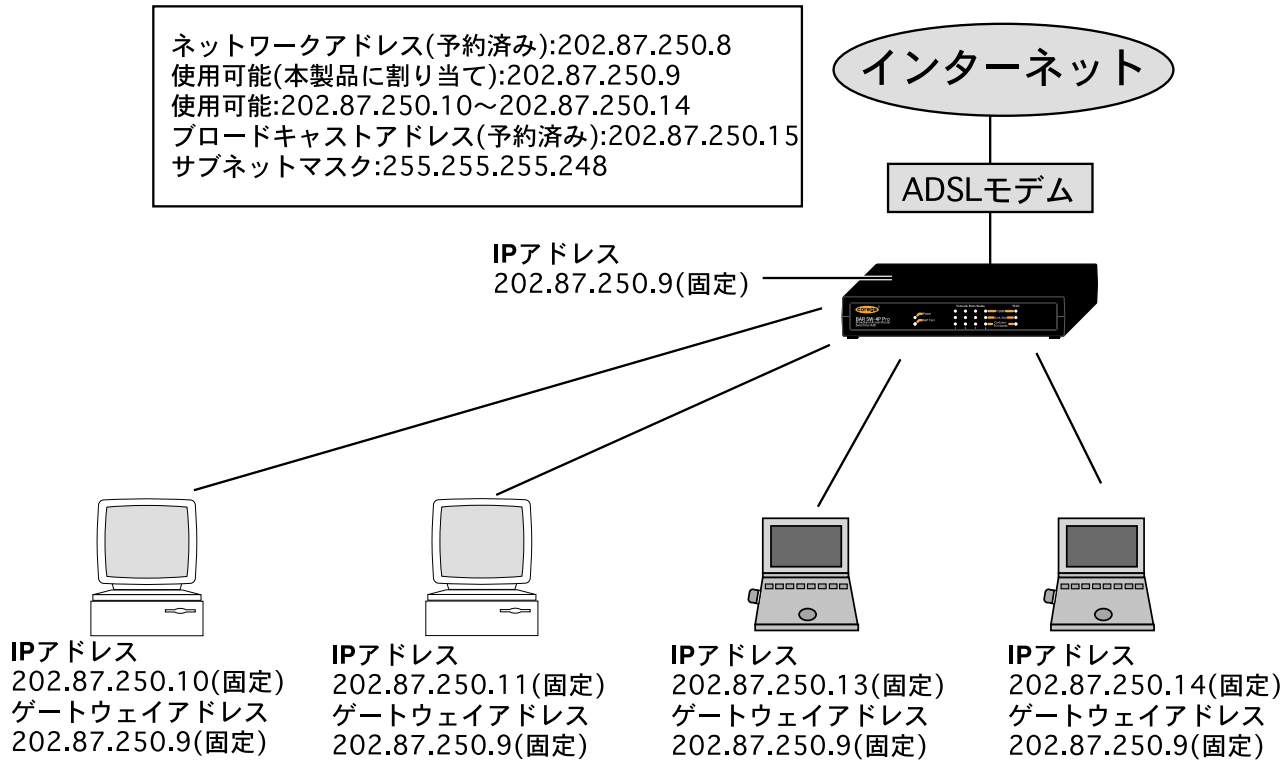
本製品の「Unnumbered IP」機能は、プロバイダーから支給された複数のグローバル IP アドレスをパソコンに割り当てて使用することができる機能です。グローバル IP をパソコンに割り当てて、インターネットに公開することによって、Web サーバーやメールサーバー、DNS サーバーなどを運用することができます。

注意 Unnumbered IP 機能で使用する場合、本製品の一部の機能が使用できなくなります。詳細については、4 ページの「2.2 Unnumbered IP 機能での制限事項」を参照してください。

注意 サーバーを公開するには、サーバー用パソコンで各サービスアプリケーションが稼働している必要があります。

注意 サーバーを公開する場合は、本製品のパケットフィルタリング機能やファイアウォールなどセキュリティーソフトで、外部からのアクセスを適切にコントロールしてください。パケットフィルタリングの設定については、本製品付属の取扱説明書・詳細編を参照してください。セキュリティーソフトの設定については、各ソフトの取扱説明書を参照してください。

下の図はプロバイダーからグローバル IP アドレス「202.87.250.8/29」を割り当てられた場合の構成例です。



Unnumbered IP の構成

2.2 Unnumbered IP 機能での制限事項

Unnumbered IP 機能を使用すると、本製品の一部機能が使用できなくなります。詳細については、下の図を参照してください。

○有効　　△制限付きで有効　　×無効

ステルスモード	△*1
バーチャルサーバー	×
IPマスカレード・テーブル保持時間	×
パケットフィルタリング設定/IPルール	○
パケットフィルタリング設定/Portルール	○
DMZ設定	×
DHCP設定	△*2
無通信時間監視	○

*1: 本製品に割り当てた IP アドレスに対してのみ有効になります。

*2: プロバイダー側の Unnumbered IP の仕様として、クライアント側には固定 IP アドレスを設定するため、Unnumbered IP 機能を有効にした際の DHCP 設定は自動的に無効に設定されます。DHCP 機能を有効に設定したい場合は、「DHCP 設定」メニューから「有効」にする必要があります。DHCP 設定を有効にする手順については、本製品に付属の取扱説明書・詳細編を参照してください。

2.3 設定するには

Unnumbered IP 機能の設定方法を説明します。

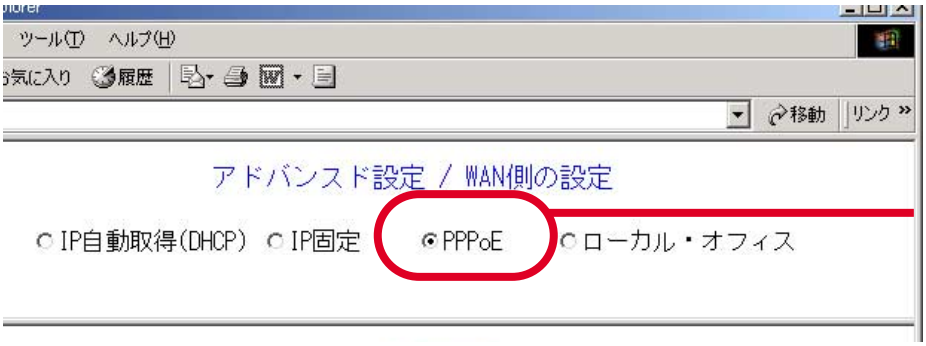
ここでは、以下の環境で設定を行うものと仮定します。また、IP アドレスについては 3 ページの「2.1 「Unnumbered IP」とは？」の図の例を使用します。

- ユーザー名 :corega@provider　・パスワード :password
- 無通信時間監視 : 設定しない　・PPPoE サービスタイプ :Unnumbered IP
- ルーター IP:202.87.250.9　・サブネットマスク :255.255.255.248
- DNS サーバー : 自動設定　・DHCP 設定 : 無効

注意 上記の設定値は一例です。実際には、プロバイダーから提供される情報に基づいて設定してください。

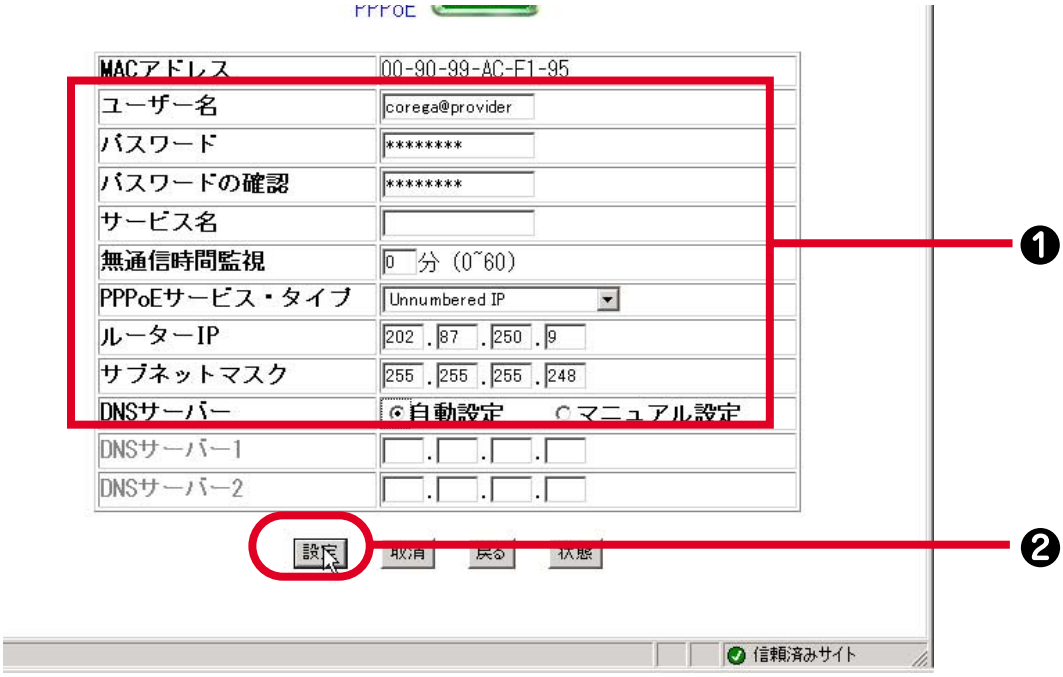
1. 設定初期画面から「アドバンスド設定」→「WAN 側の設定」をクリックします。

2.「PPPoE」を選択します。



次ページへ続く

3. 各設定値を入力、または選択します。



❶ 各項目を入力または選択します

ユーザー名 : プロバイダーから指定されたユーザー名を入力
パスワード : プロバイダーから指定されたパスワードを入力
パスワードの確認 : 確認のためパスワードを再度入力
サービス名 : プロバイダーから指定された場合に入力、指定されない場合は空欄
無通信時間監視 :「0」を入力
PPPoE サービス・タイプ :「Unnumbered IP」を選択
ルーター IP:202.87.250.9 を入力
サブネットマスク :255.255.255.248 を入力
DNS サーバー : プロバイダーから指定されたアドレスを入力

❷「設定」をクリックします

注意「Unnumbered IP」を選択すると以下のメッセージが表示されますので「OK」をクリックしてください。

次ページへ続く

4.「設定は、正常に処理されました」とメッセージが表示され、設定画面に戻ります。

5.「アドバンスド設定」→「システム設定」内でシステム・リブートの「実行」をクリックして、設定を有効にします。

注意 リブートを行わないと設定は有効になりませんので、必ずリブートしてください。

注意 設定が有効になると、「DHCP 設定」は自動的に「無効」になります。DHCP 設定を有効に設定したい場合は、「DHCP 設定」メニューから行う必要があります。手順についての詳細は、本製品付属の取扱説明書・詳細編を参照してください。

注意 本製品のLAN 側ポートに接続したパソコンをサーバーとして使用しない場合、もしくは DHCP サーバーからグローバル IP アドレスを自動的に割り当てる場合に、DHCP 設定を有効にしてください。

注意 設定が有効になると、本製品のLAN 側 IP アドレスも変更されます。次回本製品の設定を行う場合には、ブラウザで 3 の手順で入力した「ルーター IP」を指定してください。

3 .Unnumbered IP + Private IP

3.1「Unnumbered IP+Private IP」とは？

本製品の「Unnumbered IP+Private IP」機 能は、プロバイダーから支給された複数のグローバル IP アドレスと従来のプライベート IP アドレスを LAN 内で同時に使用することができる機能です。

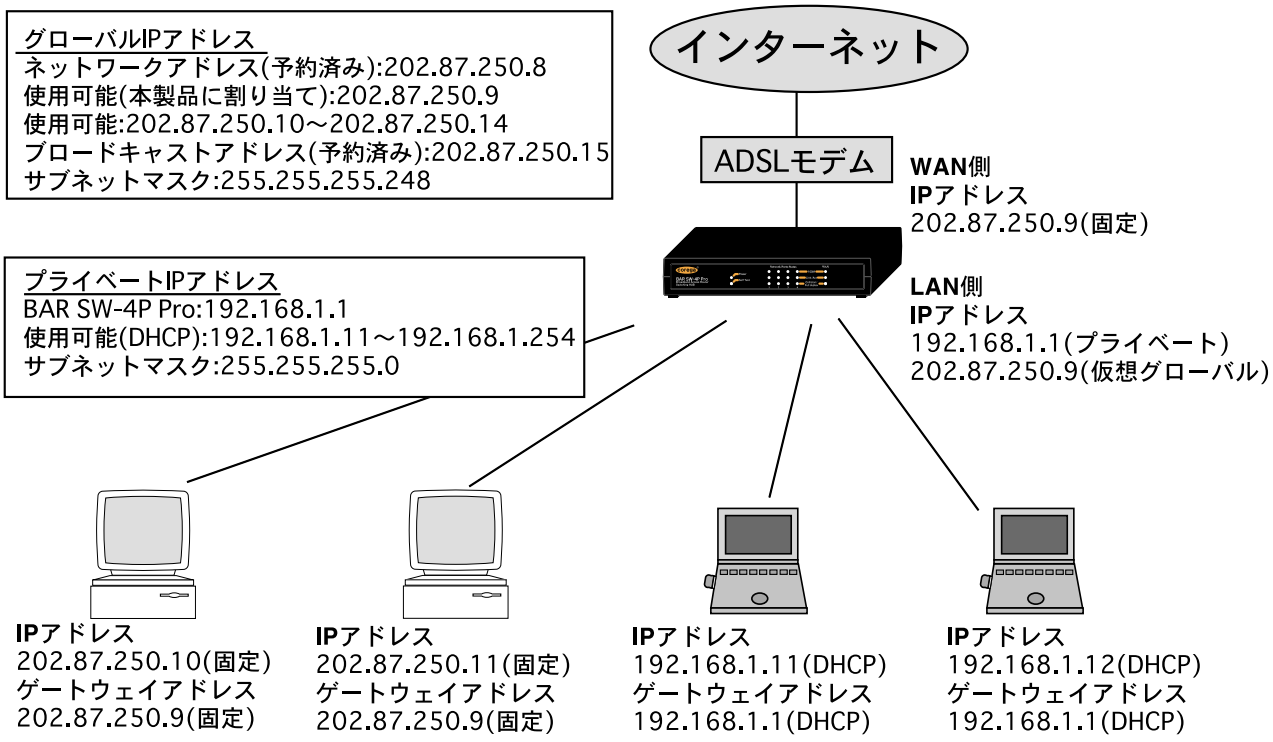
注意 プライベートアドレスとグローバルアドレスのネットワークアドレスは、必ず異なる値に設定してください。

注意 Unnumbered IP+Private IP 機能で使用する場合、本製品の一部の機能が使用できなくなります。詳細については、9 ページの「3.2 Unnumbered IP+Private IP 機能での制限事項」を参照してください。

注意 サーバーを公開するには、サーバー用パソコンで各サービスアプリケーションが稼働している必要があります。

注意 サーバーを公開する場合は、本製品のパケットフィルタリング機能やファイアウォールソフトなどのセキュリティーソフトで、外部からのアクセスを適切にコントロールしてください。パケットフィルタリングの設定については、本製品付属の取扱説明書・詳細編を参照してください。セキュリティーソフトの設定については、各ソフトの取扱説明書を参照してください。

下の図はプロバイダーからグローバル IP アドレス「202.87.250.8/29」を割り当てらてられた場合の構成例です。



Unnumbered IP+Private IP の構成

3.2 Unnumbered IP+Private IP 機能での制限事項

Unnumbered IP + Private IP 機能を使用すると、本製品の一部機能が使用できなくなります。詳細については、下の図を参照してください。

○有効　　△制限付きで有効

ステルスモード	△ *1
バーチャルサーバー	○
IPマスカレード・テーブル保持時間	○
パケットフィルタリング設定/IPルール	○
パケットフィルタリング設定/Portルール	○
DMZ設定	○
DHCP設定	△ *2
無通信時間監視	○

*1: 本製品に割り当てた IP アドレスに対してのみ有効になります。

*2:Unnumbered IP+Private IP 機能を有効にした際の DHCP 設定は自動的に有効に設定されます。DHCP 機能を無効に設定したい場合は、「DHCP 設定」メニューから「無効」にする必要があります。DHCP 設定を無効にする手順については、本製品に付属の取扱説明書・詳細編を参照してください。

3.3 設定するには

Unnumbered IP+Private IP 機能の設定方法を説明します。

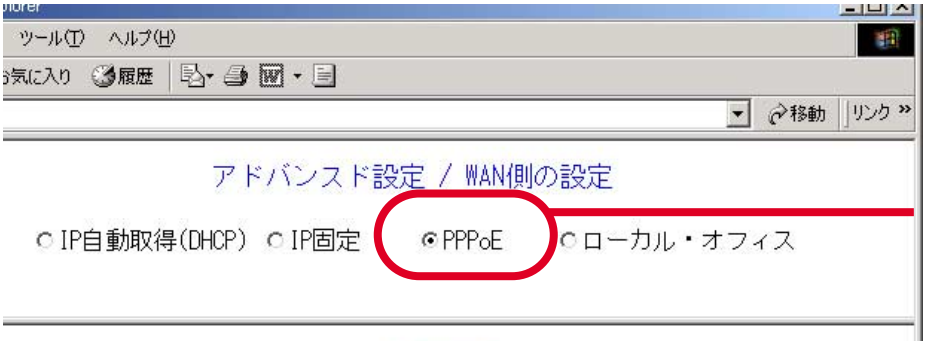
ここでは、以下の環境で設定を行うものと仮定します。また、IP アドレスについては 8 ページの「3.1 「Unnumbered IP+Private IP」とは？」の図の例を使用します。

- ユーザー名 :corega@provider　・パスワード :password
- 無通信時間監視 : 設定しない　・PPPoE サービスタイプ :Unnumbered IP+Private IP
- ルーター IP:202.87.250.9　・サブネットマスク :255.255.255.248
- DNS サーバー : 自動設定　・DHCP 設定 : 有効
- DHCP アドレスプール :192.168.1.11 ～ 192.168.1.254

注意 上記の設定値は一例です。実際には、プロバイダーから提供される情報に基づいて設定してください。

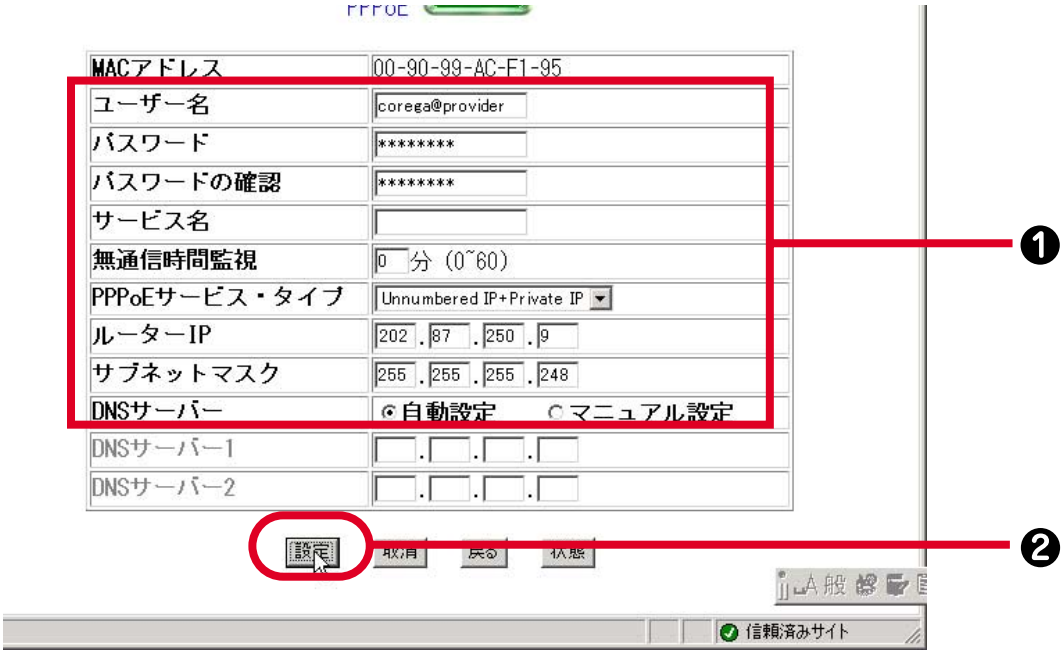
1. 設定初期画面から「アドバンスド設定」→「WAN 側の設定」をクリックします。

2.「PPPoE」を選択します。



次ページへ続く

3. 各設定値を入力、または選択します。

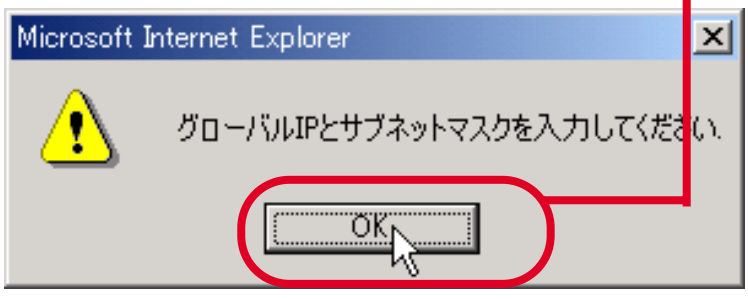


❶ 各項目を入力または選択します

ユーザー名 : プロバイダーから指定されたユーザー名を入力
パスワード : プロバイダーから指定されたパスワードを入力
パスワードの確認 : 確認のためパスワードを再度入力
サービス名 : プロバイダーから指定された場合に入力、指定されない場合は空欄
無通信時間監視 :「0」を入力
PPPoE サービス・タイプ :「Unnumbered IP+Private IP」を選択
ルーター IP:「202.87.250.9」を入力
サブネットマスク :「255.255.255.248」を入力
DNS サーバー : プロバイダーから指定されたアドレスを入力

❷「設定」をクリックします

注意 「Unnumbered IP+Private IP」を選択すると以下のメッセージが表示されますので「OK」をクリックしてください。

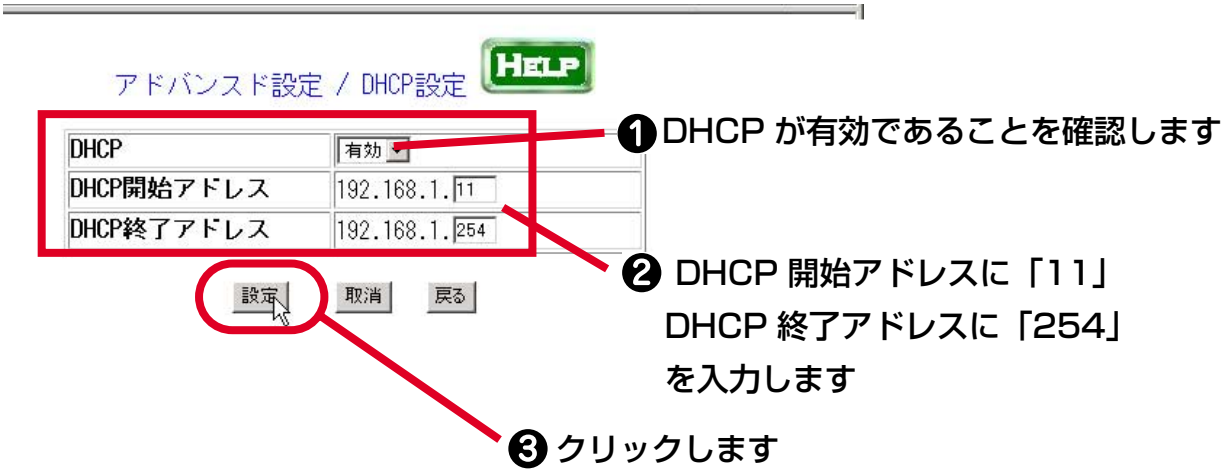


次ページへ続く

4.「設定は、正常に処理されました」とメッセージが表示され、設定画面に戻ります。

5.「アドバンスド設定」→「LAN 側の設定」をクリックします。

6.「アドバンスド設定」→「DHCP 設定」をクリックします。



7.「アドバンスド設定」→「システム設定」内でシステム・リブートの「実行」をクリックして、設定を有効にします。

注意 リブートを行わないと設定は有効になりませんので、必ずリブートしてください。

注意 設定が有効になると、「DHCP 設定」は自動的に「有効」になります。DHCP 設定を無効に設定したい場合は、「DHCP 設定」メニューから行う必要があります。手順についての詳細は、本製品付属の取扱説明書・詳細編を参照してください。

注意 次回本製品の設定を行う場合には、ブラウザから「LAN 側 IP アドレス」に指定した IP アドレスを指定してください。

4 . バーチャル・サーバーの拡張機能

本製品のファームウェアを Version 1.11 にアップグレードすることにより、バーチャル・サーバーを使用する際のポート番号を範囲で指定することができます。この機能により、Web サーバー、FTP サーバーなどの使用ポートが異なるサーバーソフトを同時に運用できます。

注意 Unnumbered IP 機能を使用している場合は、ご使用いただけません。

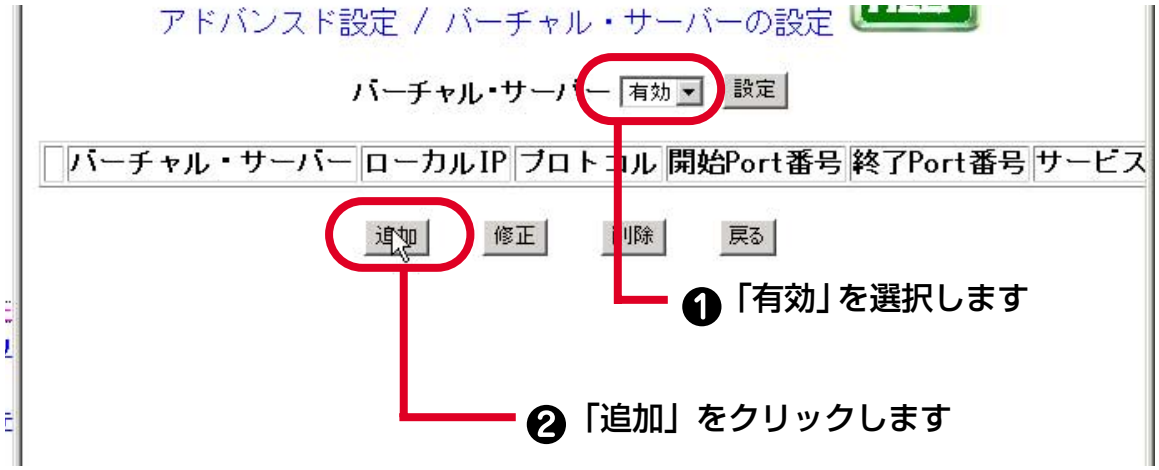
ここでは、一例として以下の設定を行う手順を説明します。バーチャルサーバーの設定手順の詳細については、本製品付属の取扱説明書・詳細編を参照してください。

・「192.168.1.8」のパソコンをバーチャルサーバーにする

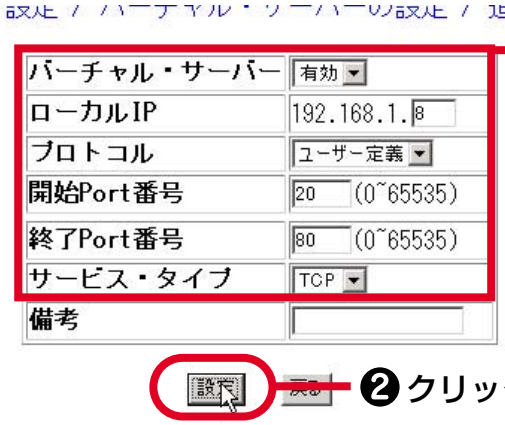
・ポート番号 :20(開始 Port 番号) ～ 80(終了 Port 番号)　・サービスタイプ :TCP

1.「アドバンスド設定」→「バーチャル・サーバー」をクリックします。

2.「追加」をクリックします。



3. 各設定値を入力、選択します。



❶各設定値を入力、選択します

ローカル IP:「8」を入力
プロトコル :「ユーザー定義」を選択
開始 Port 番号 :「20」を入力
終了 Port 番号 :「80」を入力
サービス・タイプ :「TCP」を選択

❷クリックします

注意 開始Port番号が終了Port番号より大きい数値になるように入力してください

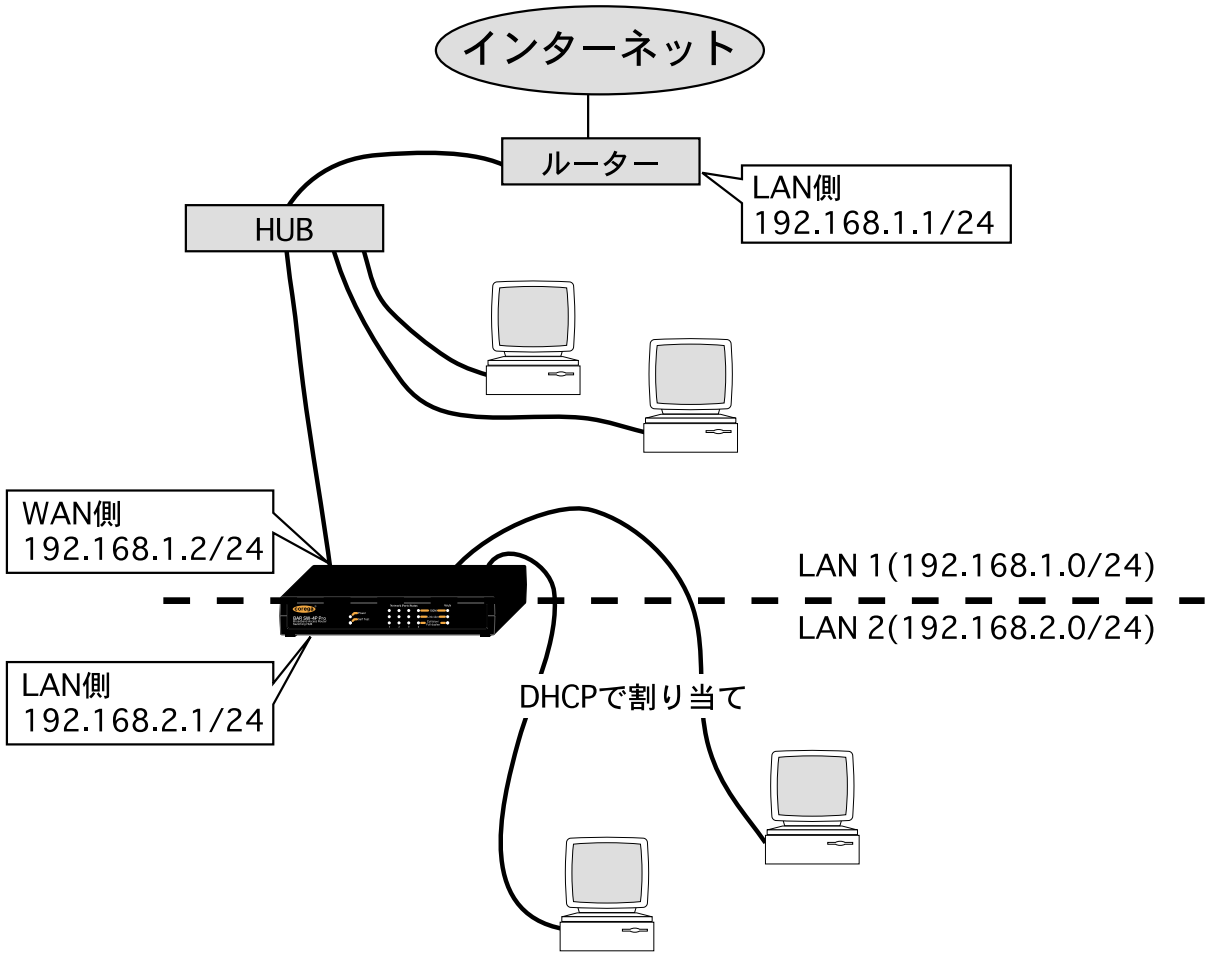
○ 開始 Port 番号 :20
終了 Port 番号 :80

× 開始 Port 番号 :80
終了 Port 番号 :20

5 . ローカル・オフィスモードの追加機能

本製品のファームウェアを Version 1.11 にアップグレードすることにより、デフォルトゲートウェイと DNS サーバーを設定することができます。この機能により、本製品をローカルルーターとして運用できます。

ここでは、一例として以下の環境で行う設定手順を説明します。



注意 ローカル・オフィスモードで使用する際は、本製品の上位のルーターにはあらかじめスタティックルートを本製品に向けて設定しておく必要があります。スタティックルートの設定方法については、ご使用のルーターの取扱説明書を参照してください。

5.1WAN 側の設定

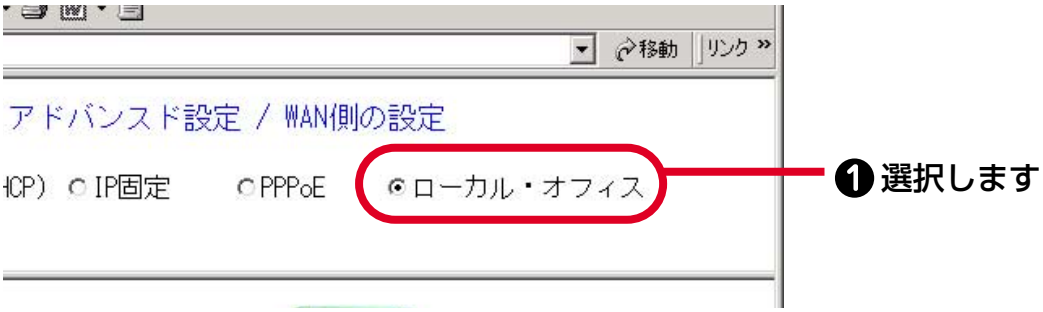
本書では、一例として以下の値を WAN 側に設定するものとして説明します。

· WAN 側 IP アドレス :192.168.1.2　· サブネットマスク :255.255.255.0
· デフォルトゲートウェイ :192.168.1.1
· DNS サーバー 1:12.34.56.78　· DNS サーバー 2:12.34.55.66

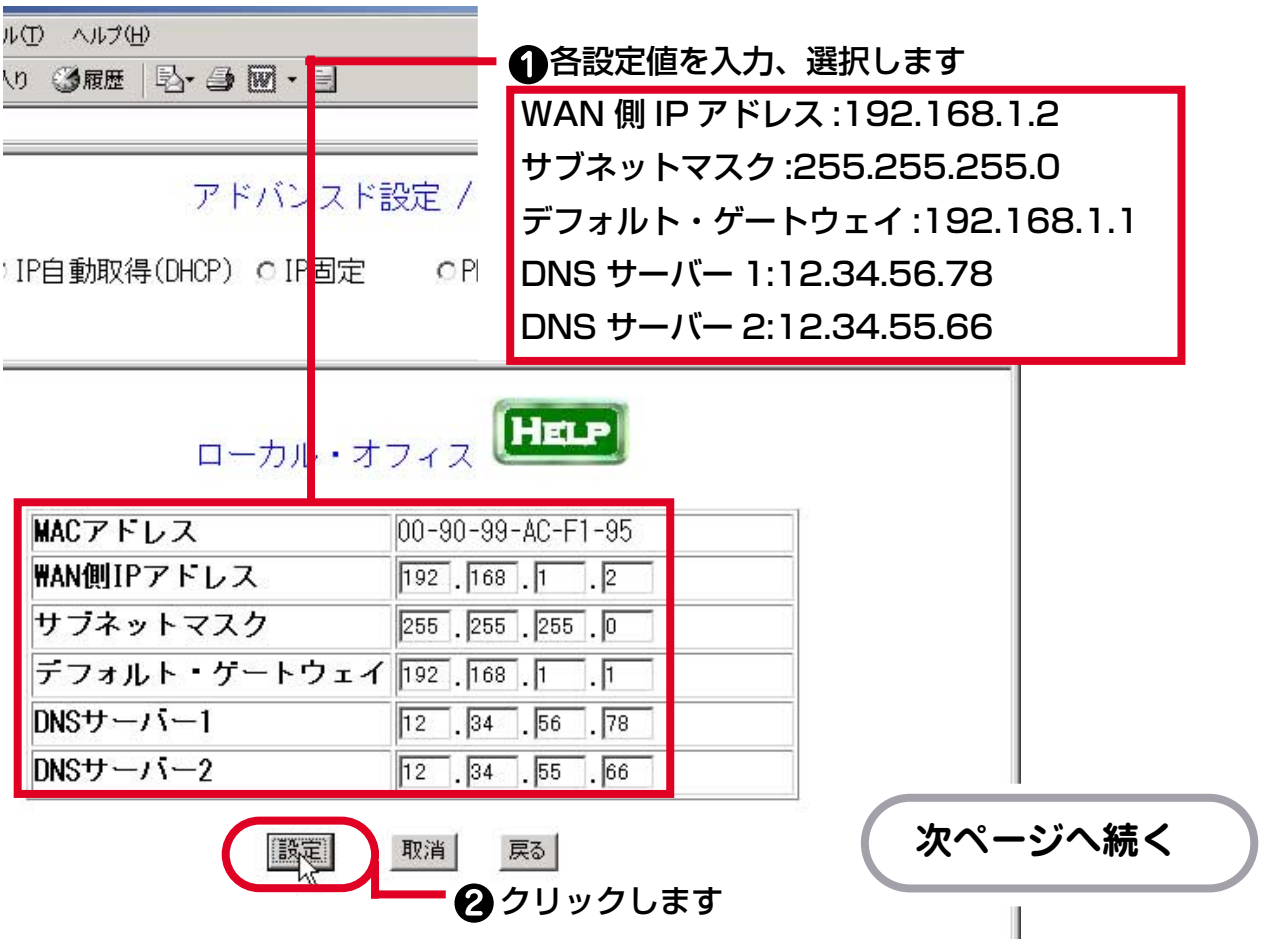
注意　上記の値は一例です。実際はご使用のネットワーク環境に合った値を設定してください。

1.「アドバンスド設定」→「WAN 側の設定」をクリックします。

2.「ローカル・オフィス」を選択します。



3. 各設定値を入力します。



4.「アドバンスド設定」→「システム設定」内でシステム・リブートの「実行」をクリックして、設定を有効にします。

注意 リブートを行わないと設定は有効になりませんので、必ずリブートしてください。

5.2 LAN 側の設定

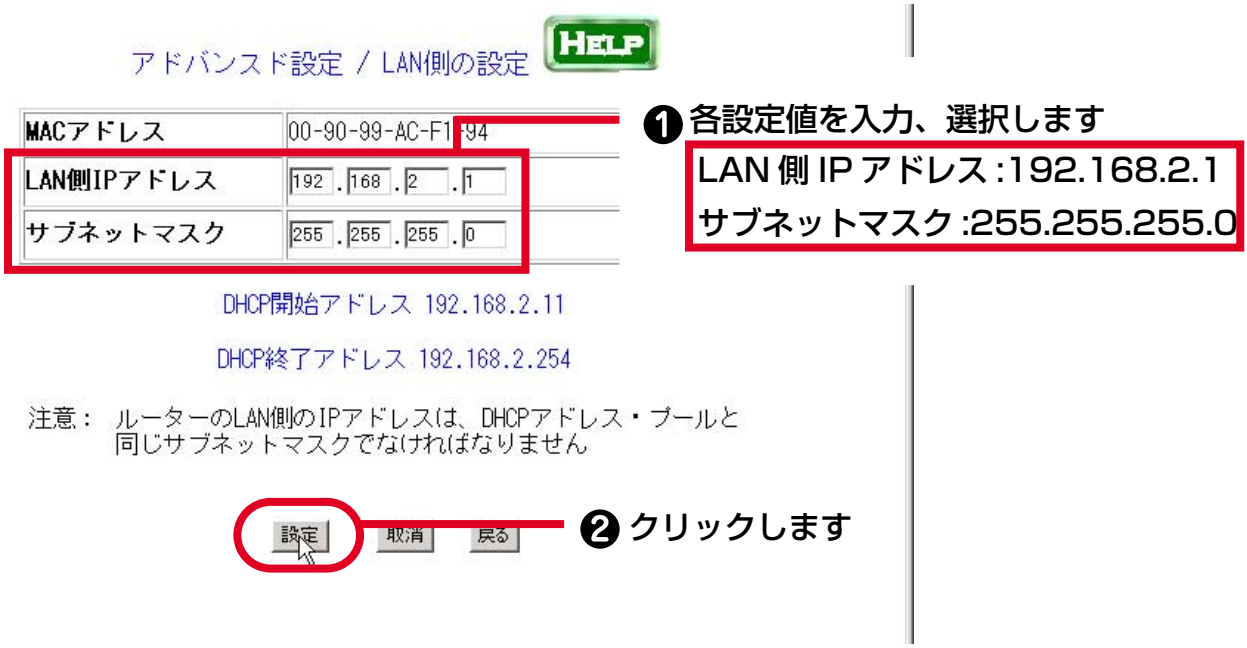
本書では、一例として以下の値を LAN 側に設定するものとして説明します。

・LAN 側 IP アドレス :192.168.2.1　・サブネットマスク :255.255.255.0

注意 上記の値は一例です。実際はご使用のネットワーク環境に合った値を設定してください。

1.「アドバンスド設定」→「LAN 側の設定」をクリックします。

2. 設定値を入力します。



3.「アドバンスド設定」→「システム設定」内でシステム・リブートの「実行」をクリックして、設定を有効にします。

注意 リブートを行わないと設定は有効になりませんので、必ずリブートしてください。

注意 次回本製品の設定を行う場合には、ブラウザから「LAN 側 IP アドレス」に指定した IP アドレスを指定してください。

5.3 DHCP 設定

本書では、一例として以下のように DHCP 設定を行うものとして説明します。

· DHCP: 有効　　· DHCP 開始アドレス :192.168.2.11
· DHCP 終了アドレス :192.168.2.254

注意　上記の値は一例です。実際はご使用のネットワーク環境に合った値を設定してください。

1.「アドバンスド設定」→「DHCP 設定」をクリックします。

2. 設定値を入力、選択します。

3.「アドバンスド設定」→「システム設定」内でシステム · リブートの「実行」をクリックして、設定を有効にします。

注意　リブートを行わないと設定は有効になりませんので、必ずリブートしてください。

6 . パケットフィルタリング (IP ルール) の仕様変更

パケットフィルタリング (IP ルール) の仕様が以下のように変更されました。

・LAN 内の特定のパソコンからインターネットへの通信を遮断する

例えば、パケットフィルタリング (IP ルール) で、開始 IP アドレスを「192.168.1.20」、終了 IP アドレスを「192.168.1.40」にした場合、「192.168.1.20 ～ 192.168.1.40」の範囲の IP アドレスを持つパソコンはインターネットに接続することができません。

おことわり

本書は、株式会社コレガが作成したもので、全ての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。

・予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。

・改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。

・本製品の内容またはその仕様により発生した損害については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

©2002 株式会社コレガ

corega は、株式会社コレガの登録商標です。

この文書に掲載しているソフトウェアおよび周辺機器の名称は各メーカーの商標または登録商標です。

2002 年 07 月　Rev.A　初版

2002 年 07 月　Rev.B　追加事項記載